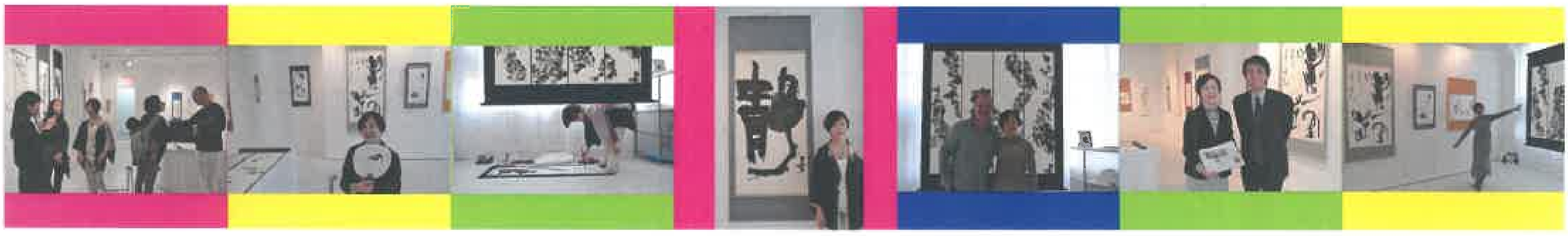


NY 個展「The Expression of Letters」を終えて

國分 絮虹

たくさんの方のご支援を得て、初めての個展が実現できました。ギャラリーの真っ白な壁に２９点、１６０センチのタペストリーは窓の前に上から吊るす形で展示計３０点、他に字を書いた陶器の皿、団扇なども添えてみました。

NY マンハッタンのチェルシーにはものすごい数の画廊があるようですが、平日は殆ど人は来ないようでした。むかしはソーホーの倉庫にヒトラーの迫害を逃れて西欧の芸術家等が集まったそうですが、いまその辺は地価もあがり、チェルシーが芸術活動のメッカになっているようです。が、ここも地価はかなり高そうでした。またゲイが多いらしいです。因みに隣のギャラリーでもゲイの写真作品が展示してありました。私はビルの９階でしたが、通りに面した１階のギャラリーのメインは、大きなキャンバスにゲイの枕絵的な大胆かつシンプルな構図のものがあり、やはりびっくりしました。１か月ほどの展示が通常のようです。私は１週間ほどでしたので時間がたりなかったかもしれません。

来廊された方は、みな一つ一つキャプションにも興味を示され、Beautiful! Exciting! Modern! Pretty! Difficult! Energy! などの語を含んだ感想を示されました。文字が難しくてそのことはわからないが、抽象画をみるように理解したといわれた時、わが意を強くしました。

かつて先人が書かなかった、この現代を反映した新しい書の表現を志向することを、再認識しました。日本人はいろいろな種類の文字を使っています。漢字・国字・ひらがな・カタカナ・ローマ字。そして世界最短の詩を持っています。これらの独自性を根底に、日本からのメッセージをさらに書の表現で発信していきたいと思います。

【来廊者感想】

・全体にとてもモダンです・「冬の子春」の詩がいいね！・とても見ていてわくわくする！・こんなの見たことない、びっくりした・字はわからないけど、抽象画を見る感覚で理解している・むずかしい！・異質な感じ・どれもいいですよ・甲骨文字のたくさん書いてあるのもいいし、静もダイナミックでいいなあ！・蜻蛉のがすきだね（からまつは淋しき木なり赤蜻蛉の短冊）・山随想がよかったわ・「静」は面白い。Quiet なのにダイナミック、青が争うとは瞑想が深まるの意味か・「草猫」いいよ！・「川氷」は現代のブラッシングと通ずるものがある・やっぱり「人衆之象」が圧巻です・黄色のも好き（「たますかす」）・「土に」がいい！・「ふみふみくだくだき」一瞬にして気に入りました・「植物」いいね・「川氷」がいいです。しかも凄く冷たいのにあったかい感じがするのはなぜでしょう・「いろは歌」・「日本語の思想」について説明したところ、大変参考になったとの感想

全体に好感を持たれたと思います。やはり見たこともない感じだったという印象です。

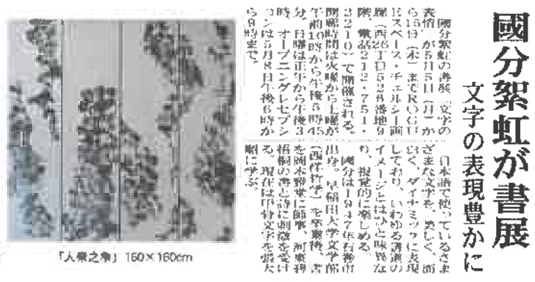
今ブラッシングという絵？が流行っているようで、それを口にする人も多かった。

ハンガリーの人でそんなアートをやっているという人も、興味深いと言っていました。

「人衆之象」は大きい画面でしたので評判がよかったです。

「植物」は変わった手法なので興味を惹いたようです。

意外にも「甲骨文字」が特別にはうつらなかったようで、彼らには漢字もかなも甲骨も、同じく抽象なのでしょう。



國分絮虹が書展

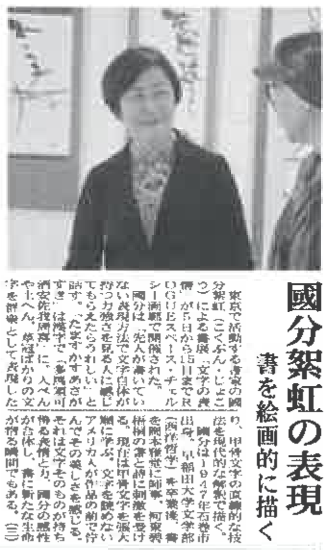
文字の表現豊かに

國分絮虹の書展「文字の表情」が5月5日（月）から15日（木）までROGUEスペース・チェルシー画廊（西26丁目528番地9階、電話212・751・3210）で開催される。開廊時間は火曜から土曜が午前10時から午後5時45分、日曜は正午から午後3時。オープニングレセプションは5月8日午後6時から9時まで。

日本語で使っているさまざまな文字を、美しく、面白く、ダイナミックに表現しており、いわゆる書道のイメージとは一味異なる作り、視覚的に楽しめる。

國分は1947年石巻市出身。早稲田大学文学部（西洋哲学）を卒業後、書を岡本雅堂に師事、河東碧梧桐の書と詩に刺激を受ける。現在は甲骨文字を張大顧に学ぶ。

「人衆之象」160×160cm



國分絮虹の表現

書を絵画的に描く

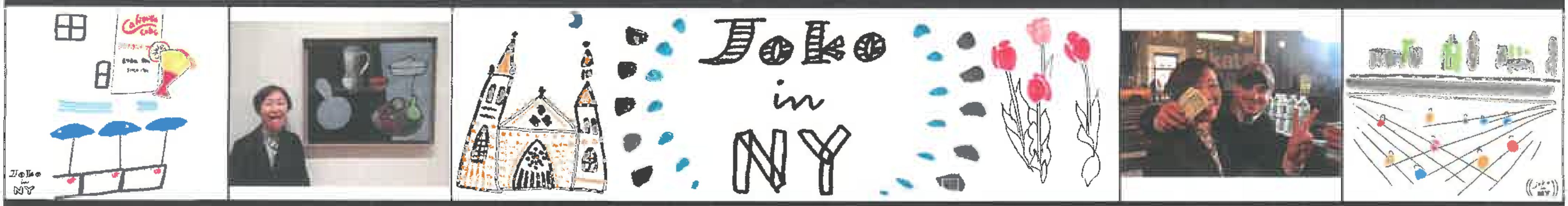
東京で活動する書家の國分絮虹（こくぶん・じょこう）による書展「文字の表情」が5日から15日までROGUEスペース・チェルシー画廊で開催された。

國分は「先人が書いていない表現方法で文字自体が持つ力強さを見る人に感じてもらえたらうれしい」と話す。"たまずかすあさがすき"は漢字で"多摩風可酒安佐我須寿"に、人べんや土へん、単位ばかりの文字を群衆として表現したり、甲骨文字の直線的な技法を現代的な解釈で描く。

國分は1947年石巻市出身。早稲田大学文学部（西洋哲学）を卒業後、書を岡本雅堂に師事、河東碧梧桐の書と詩に刺激を受ける。現在は甲骨文字を張大顧に学ぶ。文字を読めないアメリカ人が作品の前で佇んでその楽しさを感じる。それは文字そのものが持ち得る表情と力、國分の感性が合体し、書に新たな生命が宿る瞬間でもある。（三）

【コラム】　ニューヨークで、本当の新聞人に会いました！

WEB で「週間 NY 生活」を検索、紙面を見てみてください。新聞の未来を、走り続けながら考えている三浦編集長の情熱が、記事の鮮度に現れています。



絮虹の三女の私が、次女撮影の写真と共に滞在中のエピソードをご紹介します！

◎プレッツエル

NY の路面には、青果やサンドウィッチなどの屋台をあちらこちらで見かけます。有名ブランド店が建ち並ぶ５番街を歩いていた夕暮れ時のこと、小腹が減ったのか、絮虹は「プレッツエル買おう！」と走り出しました。値段が張りだされていないプレッツエルは、ちょっと高めの３ドル…内心みんな「高いな」と思っていましたが、イケメン店主の前に大人しくしています。薄い紙袋に包まれた商品を受け取ってその場を去ろうとした瞬間、店主が絮虹の肩を包み、首からカメラを提げた姉に向かってピースを作り、ニコッと笑顔をくれました。照れる絮虹の、貴重な１枚。

◎MOMA 美術館

「MOMA は行くべき」という弟の言葉を受けて、個展会場を早く閉められた金曜日の夜、絮虹と姉と私の３人で MOMA 美術館へ繰り出しました。毎週金曜はユニクロフリーチケットで無料観覧することができます。あまり考えていなかった、というか事前情報がなかったために、何の先入観も、さほどの期待もなく入館。度胆を抜かれます。圧倒的な迫力と、自由な雰囲気。建物の美しさ、また観客達のオシャレなこと！テンションが上がります。メトロポリタン同様、当然のように写真撮影は OK です。観覧する人達も、大声で話したり笑ったり…学芸員も（壁にもたれかかる、ガムを噛む、電話をするなど）かなりラフなので、こちらも肩の力を抜いて楽しむことができました。

私の勝手な感想としては、現代美術とは「作品のみを観るのではなく、作品を楽しむ人までを観る」ものなのだということ。作品の前で足を交差させ腕を組んで立つ青年、抱き合って眺める恋人達、彼らが身に付けた赤や緑のカラフルな洋服が、また新たな作品を完成させるのだと感じました。これまで全く興味のなかった現代美術に対して、新たな画期的視野をくれた MOMA 美術館に感謝。写真は愉快な絵を前に、はしゃぐ絮虹。

◎デリ

アメリカでの食事は、お店選びを間違えると痛い目に遭います。ただ行き着いた結論としては「自分の目を信じる」こと。初日は、手伝いのために渡米した我々娘二人に、絮虹がステーキを振る舞ってくれました。でもここだけの話、とても美味しいとは言えない代物で、何か話題にするとすれば、そのサイズだけ。しかし絮虹の労いの気持ちは大いに伝わってきました。これに学習して翌日からは過度な期待は控えつつ、精一杯美味しそうなものを探します。そして見付けた一件の小さな商店「デリマーケット」。用意された容器に好きな食べ物を詰めてレジへ、重さで精算するシステムです。オリジナルのサラダや惣菜、お肉やお魚といったメインに、フルーツもあります。彩り豊かなそれらは、見た目通りフレッシュで美味しかった！決してアメリカにありがちな大味ではありません！香草やスパイス、調味料の取り合わせがとても面白い。好き嫌いこそ分かれるかもしれませんが、山盛りクレソンと林檎のすっぱいサラダ、穀物ナッツとレーズンのバルサミコ和え、前菜はとてもセンスが良く印象に残る味でした。ある日の朝、私達娘二人は気に入ったそのデリ惣菜を大量に買い込んで、個展会場へ持って行きました。きっと美味しいものにありつけていない絮虹と一緒に食べるためです。香りものが好きな絮虹は案の定、とても気に入ってくれました。日本にデリマーケットがあったら週１で通うと思います！

◎31 アイスクリーム

サーティーワンアイスクリームは、アメリカでは 31 も種類がないため、バスキンロビンスと呼ばれています。パーティーでお酒を飲んだ日の夜、ホテルまでの通り道にあったバスキンロビンスに立ち寄りました。種類はさほど多くないショーウィンドウから、好みの味を探します。マンガ好きという日本語を話せる少年店員さんが、次々とテイスティングを用意してくれます。私達はおおよそハズレないよう見当を付けて注文。そんな娘を後目に、絮虹は「アメイジングスパイダーマン」なるとんでもない奇抜な色のアイスを、さらに若者に負けじと「コーン」でオーダーします。そして受け取るなり床へボトリ…マンガ少年が優しくもう一度スクープしてくれました。店を後にする時には、絮虹の舌がキレイなド紫だったことは、言うまでもありませんね。

◎母の日

最終日の５月 11 日は母の日。われわれ娘二人は「これはいい機会だ」と、花を買って絮虹のホテルへ届けることを思いつきます。その日は午後には日本へ帰国しなければならなかったのですが、母の日を３人で NY で迎えられるなんて、きっともうないだろうからと、前日から綿密なスケジュールを組みました。そして早起き、カードを書いて、慣れない英語でやっと白いバラの花束を買いました。このバラみたいに真っ白な、無垢で可愛いお母さん。元気でいてくれてありがとう。いつも笑顔でみんなを楽しませてくれてありがとう。NY での新鮮な感動をありがとう。

國分絮虹は、今日も良い笑顔です！